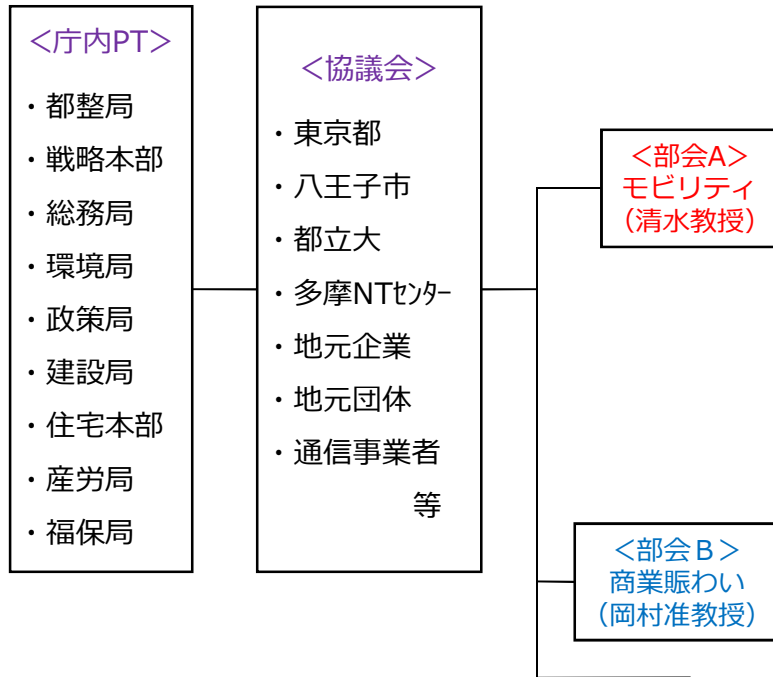


## 資料 1

# 協議会・部会の概要と開催状況

---

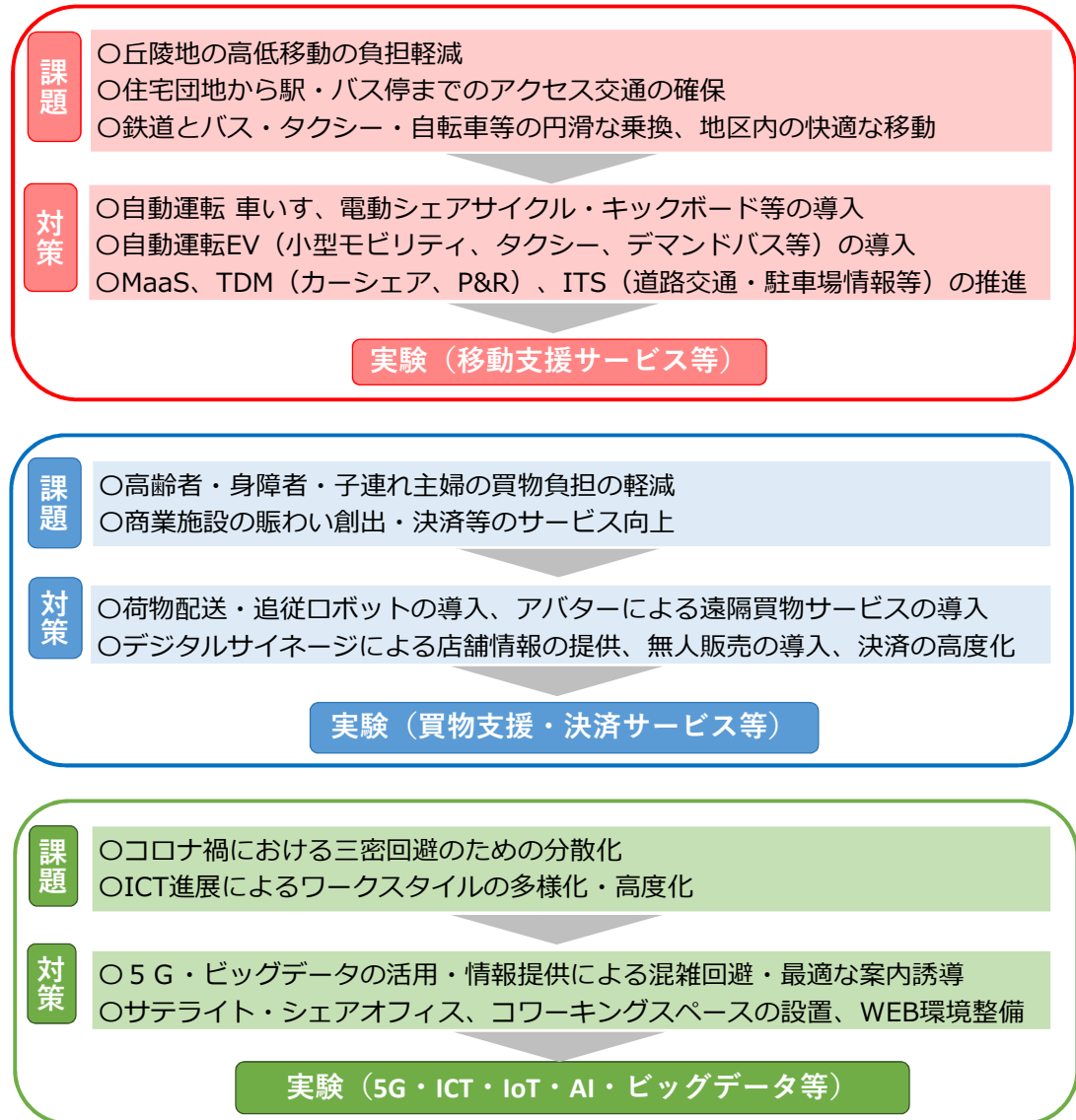
## ■ 検討組織



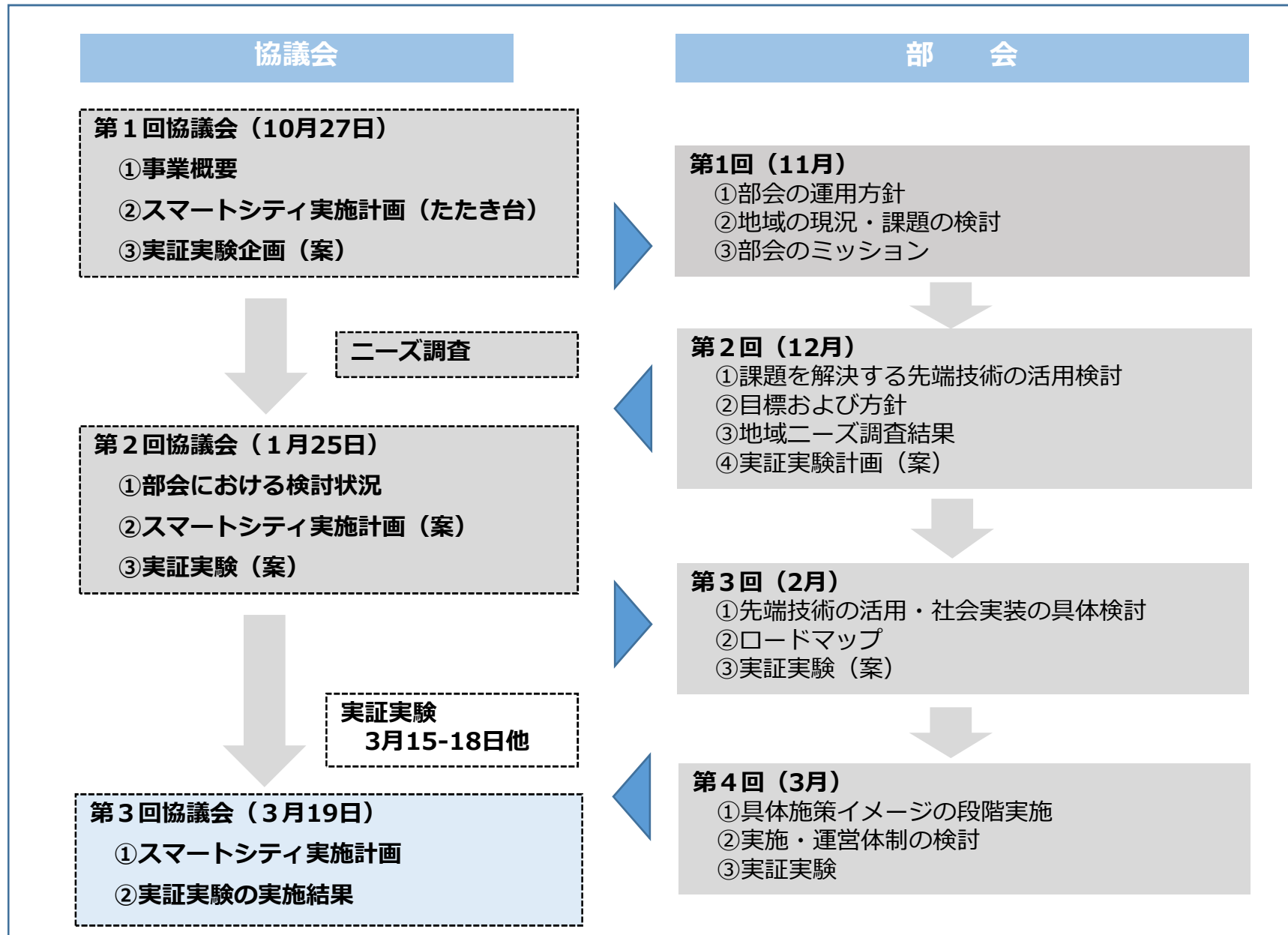
## ■ 部会の検討概要 (案)

回	内容
第1回	地域の現況・課題の検討
第2回	課題を解決する先端技術の活用検討
第3回	先端技術の導入評価・優先性検討
第4回	実施・運営体制の検討・今後の課題

## ■ 部会の検討内容 (例)



## 1-2. 協議会・部会の開催状況と検討内容



# 1-3. 部会のメンバー構成

モビリティ部会	商業賑わい部会	情報・その他部会
<b>部会長</b> : 清水教授 (東京都立大学)	<b>部会長</b> : 岡村准教授 (東京都立大学)	<b>部会長</b> : 石川教授 (東京都立大学)
<b>アドバイザー</b> : 小根山教授 (東京都立大学)		<b>ローカル5G他</b> : 東京都立大学
<b>公共交通事業</b> : 京王電鉄株式会社 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 5px;">           MaaS関連部門 (バス事業者) (タクシー事業者)         </div>	<b>商業施設等</b> : 株式会社多摩ニュータウン開発センター 三井不動産株式会社 京王電鉄株式会社 株式会社イトーヨーカ堂 「元氣な街」南大沢協力の会	<b>商業・業務施設等</b> : 株式会社多摩ニュータウン開発センター 三井不動産株式会社 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 5px;">           サテライトオフィス シェアオフィス事業部門         </div>
<b>通信サービス他</b> : NTTドコモ株式会社 KDDI株式会社		<b>「元氣な街」南大沢協力の会</b>
<b>電動シェアサイクル事業</b> : OpenStreet株式会社 <b>自動運転バス関連</b> : Boldly株式会社		<b>通信サービス他</b> : NTTドコモ株式会社 KDDI株式会社 ソフトバンク株式会社 東日本電信電話株式会社 株式会社JTOWER
<b>東京都</b> (都市整備局：市街地整備部、総務部)	<b>東京都</b> (都市整備局：市街地整備部、総務部)	<b>東京都</b> (都市整備局：市街地整備部、総務部、 戦略政策情報推進本部)
<b>八王子市</b> (都市計画部、福祉部、子ども家庭部)	<b>八王子市</b> (都市計画部、産業振興部、福祉部、 子ども家庭部)	<b>東京都</b> (環境局：地球環境エネルギー部)

※部会メンバーは協議会構成員を中心とし、  
適宜関係する企業や団体の追加参加を図る。

協議会構成員

協議会構成員以外団体

# 1-4. 第1回協議会の主な意見と対応

項目	意見	対応
協議会・部会での検討について	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会 A（モビリティ部会）、部会 B（商業賑わい部会）、部会 C（情報・その他部会）の関係性の整理が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会毎に課題へ対応する具体施策等の対象や役割を明確化し、横断的な施策や連携が望ましい施策は相互に協力して検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会毎に取り扱うデータが異なるため、各検討内容の共有も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モビリティ部会、商業賑わい部会における検討を情報・その他部会に共有し、同部会の検討を2部会に報告</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会委員以外の方に、部会の検討と並行した参加の働きかけが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会委員等からの情報も踏まえ、検討の進展に応じて必要とされる事業者等への参加の働きかけ、又はヒアリング等により意見を伺い検討の参考</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会 B の対象店舗は、検討範囲内を基本とし、今後、課題や対策の内容に応じて拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討範囲を中心に、課題や内容に応じて、周辺の店舗やその他施設等に拡大</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会 C は「情報発信」が重要。そのためのデータ取得の方針や種類・方法については部会で議論が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設等におけるデータ取得状況を把握し、情報の共通化や統合等の情報発信の方針や種類・方法について検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体施策（例）のような最先端技術の見学や積極的な情報入手による現状把握が重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本地区に類似する地区の適用事例等の事例紹介や関連するゲストスピーカー等の招聘、先端技術の見学等を検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「まちづくりの方向性」（案）は、「将来像 2：スマートなまち」を中心に、内容に応じて「将来像 1：コンパクトなまち」、「将来像 3：多様性のあるまち」についても検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「将来像 2：スマートなまち」を中心に、内容に応じて「将来像 1：コンパクトなまち」、「将来像 3：多様性のあるまち」を踏まえて、協議会や部会においてスマートシティの目標や基本方針等を検討</li> </ul>
実証実験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は部会 A の実験を行い、部会 B・部会 C は来年度に向けて検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は部会 A の実験を行い、来年度以降に部会 B、部会 C において検討した実証実験を実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会委員や住民の方が、将来や今後の展開を想像できる実験であることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の将来像や利用シーンを検討し、実証実験の位置づけを明確にするとともに、今年度は自動運転車いす等を体験してもらう実証実験を実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば、雨天時の人の行動変容時における実験を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨天時の屋内施設内や屋外でどのような実験が可能かを関係者と協議し検討</li> </ul>

# 1-4. 第2回協議会の主な意見と対応（案）

項目	意見	対応（案）
周知機会や場	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に地域の方に新技術を知ってもらえるような技術の「見える化」も必要</li> <li>皆が見れるショーケースのような場やバーチャルやオンラインで体感できるような情報発信の仕方も重要</li> <li>コロナ禍で情報に対するニーズが高まっており、お客様に使っていただきながらサービスを醸成していくことが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、地域住民や来街者等に、多様な実証実験のほか、先端技術を体感できる場や機会、バーチャルやオンラインで体感できるような方法等について、関係者や関連施設とともに検討</li> </ul>
各種の参加・参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端の取組を行う外部ベンチャー企業や大学等にアイデアを頂くような機会も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、先進的な取組を行う企業や大学等の門的な知見を活かす方法や参加機会について検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で理解を深め、実行性を高めるための市民参画の方法の検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験等の体感できる場や各種情報提供を通して、地域の理解を深めながら進めるとともに、今後ワークショップ等による市民参画の場も予定</li> </ul>
部会間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像について、「人」や「活動」に着目し、部会間で連携して取りまとめていくことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な対象や生活行動・都市活動等の「人」や「活動」に留意し、部会間の連携や役割分担を図りながら将来像を検討</li> </ul>
計画の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の計画は、長期的ビジョンや短期的対策を中心に取りまとめており、実施時期や担い手等について明確に定めるものではなく、方向性を決めておくという位置づけとの認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画は事業のスタートアップを図るため、現時点での取組の方向性をまとめたものあり、今後、具体的な実施方法や時期、運営主体の検討や技術の進展・住民ニーズに合わせてブラッシュアップしていく。</li> </ul>
事業体	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を継続するための組織や持続可能な将来像についての検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、他の先行事例等も参考に、各種サービスに併せた組織のあり方や実施・運営方法、ビジネスモデル等の持続的な組織や将来像について検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人も参画する事業体や都立大の関わり方、リアルやバーチャルの見せ方や仕掛け等、「組織」と「場」の検討が今後の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、望ましい組織形態や運営方法、都立大の参画の仕方について、関係者との調整を図りながら、部会等において「組織」と「場」を具体的に検討</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市的な所に公園・緑地があるといった南大沢の魅力を生かすため、これらをどうつないで活用していくかが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市的な駅前と周辺の公園・緑地等とをつなぐ徒歩や自転車、バス等の移動手段や先端技術の活用方法のについて検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社の施設において、導入予定であるデジタルサイネージの活用を希望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルサイネージの導入予定や情報コンテンツと合わせた活用方法を検討</li> </ul>